

HSIS★NEWS

vol.3
[新年号]
平成29年1月

発行/株式会社 北海道しんきん情報サービス

〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル
TEL.011-233-1212(代) FAX.011-261-1811

謹賀新年



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
代表取締役社長

増田 正二 (帯広信用金庫 会長)



新年あけましておめでとうございます。

平成29年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

弊社の業務運営につきましては、日頃から温かいご支援を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、1月1日から「社会保障・税番号制度」いわゆるマイナンバー制度が開始となり、国民に12桁の番号が振り当てられ、行政機関や地方公共団体などでは様々な情報に関して利用されることとなりました。また、春を迎え、北海道ではいよいよ北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）が開業となり、年明け早々新しい時代の到来を感じたものです。

このような中、昨年の道内の景況といえは、緩やかな回復基調が続いていると言われますが、実際は長年にわたる少子高齢化、人口減少・過疎化という構造的な問題を抱え、各地域では地方創生に向けて懸命に取り組んでおりますが、現状では十分な効果が表れているとは言えない状況であると感じております。

また、道内の中小零細企業の多くが需要不足に苦しんでおりますが、追い討ちをかけるような夏場の相次ぐ台風の上陸により、農水産物や交通インフラに甚大な被害を受けた地域もあり、全体として非常に厳しい景況が続いてまいりました。

こうした状況の中で、道内信用金庫の経営環境は、本年2月に導入されたマイナス金利政策の影響によって大きな打撃を受け、収益状況については、全体的には大変厳しい状況であると認識しております。

これからは、業務の効率化やコストダウンに繋がるような業務開発がますます重要となり、少しでもお役に立てるようなサービスの研究・提供に尽力しなければならず、改めて弊社をはじめとする情報サービス会社の役割を再認識しながら業務に邁進していかねばならないと考えております。

お陰様で、これまで北海道内の各信用金庫からは、旧来からのご厚情の下、大過なく業務を遂行することができていたと感じております。これからは、全国7地区にある情報サービス会社同士も強固に結束し、それぞれの地域の特性を生かしつつも連携を強化することで、更なるサービスの向上を目指したいと考えております。

これからも、変わらぬご支援ご協力を賜りますよう本誌面をお借りして心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、新しい年が皆様にとりまして、希望に満ち溢れた一年になりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
企画委員会 委員長

渡 邊 敏 昭 (釧路信用金庫 専務理事)



新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎
えのことと心よりお慶び申し上げます。

さて、当企画委員会は、従来「共同事務センター
企画委員会」の名称で平成元年より活動してお
りましたが、平成26年の共同センター組織の
統合により一旦解散、その後、その役割を引き
継ぎ、北海道しんきん情報サービス（HSIS）が
事務局を継承して、現在に至っております。

図らずも、解散前の旧委員で唯一人残った小
生が委員長を任されることとなり、新たなメン
バーで副委員長となった 江差信用金庫 田原常
務理事の後ろ盾のもと、何とか委員長としての
責務を果たしております。

現在の委員については、このHSIS ニュース
前号にも名簿が掲載されておりますので、ご高
承のとおりと思いますが、7金庫の常勤役員が
それぞれの立場で活発に意見を出し合い、この
委員会設置の趣旨・目的である「経営的な立場
から機械化利用の企画、各種調査・研究に努め、
今後予想される諸問題への適切かつ効率的な対
応を図ることを目的として活動を行う」という
ことに対して真摯に取り組んできたと思ってお
ります。

さらにもう一つ、「しんきん共同システムの
開発、改善等に関する事項、さらには経営上の
諸課題に関する事項について、当地区としての

意見を集約する他、総合的見地に立って円滑な
運営を図るため、情報交換を行う」という目的
に対し、これまで重要な役割を果たしてきたと
信じております。

本委員会では種々の議論・検討の中で「北
海道としての意見」を集約してまいりました。
その結果は、中央（共同センター）での会議
「システム評議会」や「経営対策委員会」（その後
2委員会を統合した新委員会「事業運営委員
会」）にも反映されており、北海道の良き伝統
である、単独金庫に偏らない北海道の総意とし
て全国に具申するという姿勢を貫いていると自
負しております。

今後も、このような役割をしっかりと引き継ぎ、
信用金庫業界の正しい発展のために、関係各所
が手を取り合って本質がぶれないよう活動して
いくことが最も重要であると思っております。

地区に残る唯一の情報サービス会社である、
北海道しんきん情報サービス（HSIS）にも大
いに期待し、地域特性が絡むものはより一層そ
の役割を担ってほしいと願っております。

最後に、当委員会を大過なく運営することが
できましたことは、各委員の皆様ならびに関係
各位のご支援の賜物と存じ、本紙面をお借りし
て心よりお礼申し上げますとともに、各金庫の
益々のご発展をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶
とさせていただきます。



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
システム専門委員会 委員長

橋野 聖 一 (稚内信用金庫 常勤理事)



あけましておめでとうございます。

平成29年の新春を迎え、システム専門委員会を代表し、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年を振り返りますと、3月に北海道新幹線が開業し地域に大きな変革をもたらしました。また、8月のリオ五輪・パラリンピックでは、日本人選手が大活躍し、10月には日本人が3年連続となるノーベル賞を受賞するなどの明るい話題がありました。

一方、4月には熊本地震が発生し、8、9月に北海道に上陸した台風では、農業や交通インフラ、沿岸の養殖等が大きな被害を受け改めて自然災害の脅威を感じたところです。

景気は穏やかな回復傾向となっておりますが、北海道ではなかなか実感できない厳しい経済状況が続いております。

高齢化や人口減少といった環境変化にも直面しており、持続可能性確保のための経済活性化は重要な地域課題となっております。

さて、平成28事務年度の「金融行政方針」は、信用金庫法第1条に基づき信用金庫が長年に亘り地域のために行ってきた経営こそが、地域金融機関が地域から求められていることに他ならない証左でもあります。

私たちシステム担当者は、「IT技術の進展による金融業・市場の変革への戦略的な対応」についても取り組んでいかなければなりません。

FinTechにおいても、言葉に踊らされることなく、お客様本位でのより良いサービスは何か、提供側の都合でのサービスになっていないか等を考えなければなりません。

サイバーセキュリティ対策については、サイバー攻撃が高度化しておりファイアウォールによりシステムに侵入させない対策から、侵入されることを前提とした対策が必要となっております。インターネットバンキングにおいても攻撃方法は多様化し続けており、お客様を守るシステムも常に最新化していく必要があります。

当専門委員会におきましては、各金庫が独自に行っているシステムを共同で利用することにより、安価にそして、より有効に利用できるような情報の共有化を図り、また、各金庫が抱えている問題について議論を進めております。

オンラインシステムにおきましても、平成29年度にサブシステムの更改、平成30年度には基幹系システムの更改があります。

しんきん共同センターでの説明会だけでなく、当専門委員会におきましても、顧客周知等を含め安全に更改できる体制を構築してまいります。

本年が道内信用金庫ならびに役職員の皆様にとりまして、明るく希望に満ちたすばらしい一年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



新しい年を迎えて

株式会社北海道しんきん情報サービス
代表取締役専務

竹谷 信行



あけましておめでとうございます。

昨年は株主金庫の皆様はじめ業務運営に関係していただいた皆様には、いろいろご支援、ご協力を賜り本当にありがとうございました。

お蔭様で、センター統合後3年が経とうとしておりますが、当社の業務面でも経営面でも多少は安定してきた感があります。

思えば、センター統合後、色々な課題を抱えながら、残された十数名の社員とパートさんたちが、当社の状況をよく理解してくれ、それぞれの立場の中でよくがんばってくれました。

また、我々の力不足を各金庫の皆様、各ベンダーの皆様が支えてくれました。本当にあらためて感謝申し上げます。

新しい年を迎えて、一つ目のテーマとして、金庫が、北海道の枠を超えて全国の情報会社のサービスを利用できるよう更なる会社間の連携強化を図っていくこととします。

そのためには、インフラ整備として全国の情報サービス会社との間をネットワーク（回線）でつなぐ必要があります。

今年はその実現していくこととします。

これにより金庫にとって更なるサービス枠が広がります。

もうひとつのテーマは、地域活性化に向けたサービスの提供です。

個々の金庫は、それぞれいろいろな形で取り

組まれていらっしゃると思いますが、纏まることにより効果が発揮できる仕組みを金庫の皆様とよく相談しながら詰めて、当社がその役割を担うことができるよう考えていきたいと思っております。

これについては、手始めにまずWEBショップサイトの立ち上げです。これは単なる商品の販売ではなく、併せて各種イベントへの企画、出展先を含めた観光ツアーの企画など地域活性化の切り口になるように金庫を通じ地元の関係先と連携を取りながら施策を講じていきたいと考えています。

今年、この2つのテーマを主軸に業務を展開していきたいと考えておりますので、昨年同様、格別のご指導、ご厚情を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今、金融業界を取り巻く環境はまことに不安定で、先行きが不透明な中、北海道が抱えている問題はさらに深刻化しております。

そんな苦悩している金庫様の少しでもお役にたてることができれば当社としては幸いですと思っております。

結びになりますが、今年が皆様にとりまして新たなる飛躍、発展の年になりますよう心からご祈念申し上げまして新年の挨拶とさせていただきます。